

“水俣病”発見できず

地元 茂道地区検診の結果

水俣市

水俣市・芦北郡医師会（緒方惟治会長）が中心になって四月二十

五日、水俣市茂道地区で開いた「一日診療所」の結果がまとまったが、水俣病患者と見られる人は拾い上げられなかった。

この一日診療所は同医師会が進めている地域保健開発の一環として行なったもので水俣保健所、水俣市も協力した。内科、外科、眼科、耳鼻科、皮膚科、精神科の医師が診察した。茂道地区百五世帯三百八人のうち学校児童、生徒、事業所勤務者、乳幼児を除いた百八十人が対象で、そのうち百三十五人の健康状態を見た。

その後、医師会で調査委員会を作って調査結果をまとめた。その結果によると、山間地と違って高血圧が少なく、低血圧と思われる

人が多い。また仕事の関係からか神経痛などがみられるのが全般的傾向としてあげられており、緒方会長は「水俣病の多発地区でもあ

り、不全型の水俣病患者がいると考えられていたが発見出来なかった。しかし今後の課題として本人の訴えを中心として総合的検診を

してみる必要があるだろう」と語っている。なお同医師会は今後、範圍をひろげ、水俣病多発地区の袋